



第 5 回 (仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設基本計画検討協議会 議事概要

1. 開会

2. 話題

(1) 報告

1) 前回協議会の結果

(事務局説明)

- 第 3 回協議会のお話しをご説明させて頂いた。
- 青年会議所からアイデア募集コンテストの紹介をいただいた。小学生、中学生、高校生対象のアンケートは 200 名以上の子供達から回答があり、「甘い物やお祭りの物もやりたい」という意見があった。町の自慢は瞰望岩とコスモス園という声であった。
- 道の駅の視察を 10 月 6 日と 7 日に行ってきた内容についての報告をし、配布資料だと情報が少ないという指摘もあり、それに合わせて今回は参考資料 2「道の駅先進地視察まとめ」という情報を追加したものを配布させて頂いた。
- コンcept案について、詳細な今後の検討内容などを説明し、それに対しては、眺望が大事、コンセプトはこの案で進める、運営の候補案として商工会議所・観光協会・スキー場関係者を外すことはできないなどの意見を頂いた。
- 施設については、高低差が 3m 位できてしまうので、これを解消する様な建物の構成になり、1 階が駐車場、2 階がゲレンデ側に行ける、という作りにした形をご提案した。これについて、図の状態だとイメージが若干わかりづらいというご指摘を頂き、今回模型もご用意させて頂いた。駐車場台数は、舗装面が 100 台分、臨時駐車場にもできるような緑地スペースとして 100 台位停められるようにしたいというご説明をした。
- 考える会については、この会協議会が終わった後に、すぐに供用予定を目指し 30 年度初頭の IC 供用に向け、30 年度末までには道の駅を作って運営できるようにしたいと考え、28 年中の実施設設計、建物に関しての詳細まで完了させる必要があるため、急いで運営方法などを考えなくてはならないというご説明をした。
- 誰が主体になるかを決めないと運営者がやり辛いという指摘があった一方で、観光協会・商工会議所は必ず関わるのでどのように運営するかというのは皆で決めて行けば良いのでは、などのお話しがあった。
- 網走開発建設部の方から、北海道の中で初めての 1 市町村に 3 つの道の駅がある所になるので、これに関して相乗効果を狙える様な形で運営していく様にしたら良いのでは、防災拠点についてはこれから情報提供をさせて下さいというお話しを頂いた。



2) 重点「道の駅」制度について

(網走開発建設部)

- 地方創生、工夫の場となる道の駅という事で、現在北海道の道の駅は主に市町村が設置し国土交通省が登録する道路休憩施設という形になっている。
- 現在道の駅は北海道 117 箇所、全国では 1,040 登録されている。11 月 17 日に新たな道の駅 2 箇所が登録になっている。
- 地域の創意工夫で「・観光で呼ぶ ・移住で呼ぶ ・特産品で盛り上げる ・小さな拠点を作る ・防災力を強化する。」というようなテーマで取組が進展している。
- 今年度 27 年度の重点「道の駅」に関しては、地方創生に資する地産地消の促進及び小さな拠点の形成等を目指した道の駅というところに大きく力を入れて、新たな道の駅の設置、またはリニューアル等の企画提案を募集しており、この取組を引き続き行っている。
- 日本全国モデルの道の駅 6 箇所、重点の道の駅 35 箇所、重点候補として 49 箇所を選定している。
- 北海道ではニセコビュープラザ、あったか・あいろーど、当別が選定されており、まだ道の駅オープンしてない所も実際に重点として登録されているという実績がある。
- 防災拠点化の事例という事で、おんねゆ温泉の事例を付けさせて頂いた。地元自治体と連携し、道の駅に相応しいメニューにより災害に対応した避難場所として整備を図るという事で、平成 17 年から実施している。具体的には発動発電機などを整備している。
- 道の駅仮称あったか・あいろーど（北海道石狩市）が候補に上がっている。地方創生拠点の機能として、ゲートウェイ型の道の駅という事で今回登録になっており、地域の議論を積み重ねから導き出された「近説遠来」の思想による地方創生の拠点化へという形で地域の方々の意見を踏まえながら進めて行く。
- 地方センター型、地方創成拠点としての地域センター型の例として、道の駅当別が重点候補に挙げられている。これもまだオープンしていないが、地域の特徴を活かし、米や小麦など地場産品を新鮮に提供する仕組みや、花、スウェーデン風の街並みなど、景観を活かす取組を構築し、経済活動への活発化、また、様々な市町村、民間企業との連携により年間を通じた多彩なイベントの開催拠点として役割を果たす道の駅として重点候補として登録されている。

(座長)

- これは毎年やっているのか

(網走開発建設部)

- 決まってはいるが、今年度もやっており、11 月 17 日から募集している。今年度のテーマは先程触れた「地域創生に資する地産地消の促進小さな拠点の形成等を目指した道の駅」ということで、毎年テーマを設けて募集を行っている。

(座長)

- まだオープンしていない道の駅もこの対象になるというのは、オープンしていないとは言いながら、どこまで出来た段階で手を挙げる事ができるのか。
- この重点の道の駅がこの遠軽の豊里のインターチェンジに出来るこの道の駅に合致すれば、うまく使っていけば良い話ですね。

(網走開発建設部)

- 具体的には場所等決まらなると中々決まらない。大体場所と具体的な建物の構想等を煮詰めた段階



で話を承っていると聞いている。

- 候補となった企画は委員会で検討される。オープンが先でも開発局として推薦はできる可能性はあると思う。

(座長)

- でも推薦されるためには具体的な所まで決めないと、中々手を挙げられないってことですね。

(網走開発建設部)

- はい。

(委員)

- 情報提供ができる限りで良いが、このオホーツク管内で今後できる予定とか今申請している団体の状況はどうなっているか。

(網走開発建設部)

- 候補はオホーツク管内ではない。ただ、一部の自治体からは重点道の駅ってどういうものなのかという問い合わせはある。

(2) 議題

1) 提言書(案)について(第1章～第3章)

(事務局説明)

- 1章から3章までの話しに関しては、これまで全て協議会の中でお話ししている内容だったりするのを改めて文章にしているという部分になる。
- 4章の1に関しては、新たに数字は、検討した結果少し変わっている。
- 4章の2に関しては、前回運営の話しをしているが、さらに細かく部会の話しになっているので、後程説明させて頂く。
- 「1章 はじめに」は、旭川紋別自動車道の整備状況や丸瀬布遠軽道路の整備状況などについて説明、(仮称)遠軽豊里 IC の開設が平成 30 年代の早い時期にあるという前提があり、更に現地の状況として、IC の位置が遠軽ロックバレースキー場の周辺になることが決まっており、高規格道路の完成に合わせてスキー場の周辺整備も予定している。そのため、スキー場のロッジを兼ね、道の駅機能を有した施設整備により遠軽町の PR 並びに活性化を図ることを目指す。地域の意向を反映し活かせる施設となる様、スキー場周辺整備についてコンセプトや基本方針を検討しこれにまとめてこの提言をする、ということを説明している。
- 「2章 1」では、インターが 30 年台に供用予定であり、しばらくの間、遠軽丸瀬布部分が端末になる事が考えられている。また、ロックバレースキー場が町民に非常に有効に活用されているが、ロッジをはじめ施設の老朽化が進んでいる状況にある。町の総合計画でもオホーツク間の交通網の延伸に合わせて新たな観光情報拠点の整備の検討が位置付けられている。IC の供用に合わせて、地域の観光振興、情報発信に関する相乗効果が生まれることが考えられるために、ロックバレースキー場と一体となった道の駅整備を検討する、ということを説明している。
- 「2章 2」では、基本計画検討するために、地域の関係団体を代表する方及び学識者で構成する協議会を設置し、検討の途中では町民皆さんが参加するワークショップの開催によって意向を把握している。その意向に関しては協議会で確認し検討に反映しているということを説明している。
- 「3章 1」は、コンセプト「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」、「3章 2」



は整備の考え方3つを書いている。7頁には防災拠点として時間を過ごせる設備について、8頁には快適に利用できるトイレとか駐車場をしっかりと整備するということを強く記載している。

- 「3章 3」は運営管理のあり方だが、(1)では建設者及び道の駅としての設置者として、市町村もしくは市町村長に代わりうる公的な団体が考えられ、遠軽町が合併特例債等を利用して建設する事が予定されていることから、建設者（および所有者）である遠軽町が設置者になることが良いかと思われるとしている。(2)の管理運営者に関しては、直営方式（公設公営）と指定管理者方式（公設民営）が考えられるが、中心施設における道の駅スキー場ロッジ機能の一体的整備によって利用の効率化、相乗効果を期待しているため、施設全体の管理運営はひとつの組織が統轄することが望まれる、また、民間事業者のノウハウを活用しつつサービス向上と効率化を目指すために、指定管理者制度導入が適切であるとしている。さらに、指定管理者は公益性を担保しつつ、地元産業や観光資源に精通している組織である商工会議所、観光協会等の公益的団体による運営が望ましいとし、スキー場は別途管理運営を行い、指定管理者と連携する事が考えられるというまとめにしている。

(委員)

- 丸瀬布 IC と瀬戸瀬 IC の間の 10 キロが 28 年度できて瀬戸瀬 IC で降りられるようになっているが、将来的にも IC はあるのか。

(網走開発建設部)

- 基本的にはそう。正しくは 10 キロじゃなくて 11 キロ。

(座長)

- 提言書なので文書だけになっているが、今まで皆さんが見てきた写真の事を文書にしているという形。
- トイレ、駐車場の 8 頁の(3)に関しては特に取り上げて議論しなかったが、皆様の意見や他の道の駅を見てきた報告の中のトイレとか駐車場の使い方が出ている。こういう形でイメージ的にも載せさせていただくが宜しいか。
- 9 頁からの管理運営のあり方だが、これも特段ここで時間をとってきっちり議論していたわけではないが、こういう形で管理運営のあり方として設置者と管理運営者という様な形で考えられ、更には皆さんの意見も総合的に考えると、管理運営者というしてはこういう形の文書にまとめている。

(委員)

- 管理運営の仕方で、今まで成功している所の運営の仕方がやっぱりそれが 1 番モデルになると思う。全国的に全道的にでも売れてる店はどういう運営の仕方をやってるのか。やっぱりベストの方法が参考になるのではないかと思う。

(座長)

- 何か、是非参考にして頂きたい事例はあるか。

(事務局)

- 実際に皆様に視察して頂いた中で今この提言書の中でひとつ入れているのは、公設公営、直営でやっているが、成功しているパターンがニセコ。ニセコは公設公営だが、野菜の直売所などは組合が運営している。
- 視察に行っている中で例えば赤井川村は指定管理者で、商工会がやっている。他も観光協会がやっていて、ベーカリーなどのお手軽な物が実は売上に影響があるので、組織形態の他にどういう物を提供していくのが影響があるのかという風に視察の結果から考えられる。



(座長)

- この辺りが次に繋がる重要なポイントで、一応この会としての提言書という形ではこういう形のまとめ、望まれる考えるっていう形になる。これがこれしかないっていうものではなく、そういうことを考えながら次に繋げて行きましょうということになる。

(委員)

- 10 頁の運営イメージの絵は、指定管理者のイメージか。

(事務局)

- 指定管理者のイメージである。

(座長)

- 特にご意見なければこういう形で提言まとめさせて頂きたい。
- それでは、第 4 章の最初の部分。整備のイメージっていう形で 11 頁から 14 頁に向けてこの辺りに関する案をご説明頂き、また皆様からご意見頂きたいと思う。

2) 提言書 (案) について (第 4 章)

(事務局説明)

- 「4 章 1 (1)」は導入機能の想定と検討ポイントで、道の駅とスキーロッジを兼ねた今回計画する施設について、今まで協議会やワークショップで検討された主要な機能を整理し、今後の特に検討が必要なポイントをまとめたものになる。主要な導入機能として休憩機能、情報機能、飲食機能、飲食機能としてはここではフードコートとレストラン、物販機能、便所機能、管理機能で構成されている。今後は各機能の担い手の検討も必要になる。
- 「4 章 1 (2)」は階の想定と規模の検討になる。主要な機能を盛り込み、現状のロッジや他の道の駅の事例を勘案して、不足しないと思われる規模で設定したものである。施設面積はほぼ現在考えられる最大規模と考えている。ただ決して今後提供サービスの絞り込み・変更や、機能別の面積変更をすることを妨げるものではない。
- 「4 章 1 (3)」は機能構成案になる。今まで想定した各機能の規模を満たすように配置構成した検討案になっている。提言書案の写真では少々小さくなっているが、高速道路と建物、駐車場とリフトの関係がわかる様に模型を作ってきたので後程ご覧頂ければと思っている。

(座長)

- こういう形で作っているが、仮にという形となる。これはあくまでもまだここにある通り、全てがここで決まりというわけではなく、これを基本にというか、仮にこういう風に作ってみるとこういう形になるというだけなので、決して入るものとか、面積に関して最終的に決定したその面積とか構成ではないということである。

(委員)

- 今説明であったが、防災関係については仮眠などの発想はこの中に入っているか。また、24 時間のコンビニ関係設置をすると別棟となって、1 階に作れる想定にはなっていないか。

(事務局)

- 機能想定は先程説明あった内容の方向でイメージしている。コンビニは現時点では考慮していない。

(座長)

- 防災は色んな形でホールとか会議室とか使える。常に使うものではないので、もしくは冬の場合そ



ういう形でその防災なんかの宿泊を考えた場合のその物としても考えられる。

3) 運営等に向けた今後の検討について

(事務局説明)

- 「4章 2 (1)」は検討組織についてになる。中心施設は遠軽町が設置者となり、管理運営者は指定管理制度で公益的団体でもある商工会議所や観光協会等による運営が望ましいとまとめているが、今後は具体的な検討を行う必要があるため、実務者レベルによる「考える会」を立ち上げ、現在の協議会は名称を「(仮称)遠軽豊里 IC 道の駅検討協議会」として、「考える会」の話し合いの結果を確認する機関として位置付けたい。協議会は今後実際の運営の議論やその確認になり、町内の団体の代表を持って構成すべきと考えているが、それまでの経緯を知って頂いている現在の協議会の座長である高橋教授には可能であればオブザーバーをお願いしたいと考えている。
- 「4章 2 (2)」はスケジュールについてになる。(仮称)遠軽豊里 IC の供用開始が平成 30 年代の早い時期となっており、それに合わせて道の駅も供用できる様に検討を進める必要がある。スケジュールは 27 年が基本設計、28 年実施設計、29 年 30 年が工事で 30 年度末に供用開始ができる様なスケジュールということで考えている。
- 「4章 2 (3)」は「考える会」での検討事項についてになる。「考える会」は 3 つの部会と部会を統轄したり施設の運営などの検討を行う幹事会により構成する事を考えている。
- 「幹事会」での検討内容は、施設の運営を考慮、また他の部会の意見などを集約し設計や町の計画に対して提案を行う。他にも施設の利用、管理体制、また他の町内の道の駅など他の施設との連携の検討を行う。メンバーとしては、商工会議所、観光協会、商工会、スキー場管理者、役場などが考えられる。
- 「体験部会」での検討内容は、スキー場の夏場の利用、スキー場の邪魔にならない風景、地域の情報提供するレベルと範囲と方法、各種イベントなどの検討を行う。メンバーとしては観光協会、スキー場管理者、体育協会、青年会議所、教育委員会などが考えられる。
- 「産業・食部会」での検討内容は、野菜果物などの販売に関する組織やルール、販売に関するルールや方法、レストラン・フードコート・軽食などの食を提供する形式・運営・ルール、市街地の飲食店との連携や住み分け、商品開発などの検討を行う。メンバーとしては、商工会議所、物産協会、えんゆう農業協働組合、野菜果物の生産者、飲食店組合などが考えられる。
- 「情報発信部会」の検討内容は、地域の情報提供をするレベルと範囲の方法などの検討を行うということで、メンバーとしては、観光協会と丸瀬布・白滝の各道の駅の運営者などが考えられる。
- この他にも各部会において、必要に応じ連携が必要となる組織機関として、北海道開発局、北海道などがある。また、各種専門家についても経営流通関係の関係者とか金融機関などの参加や話題提供を依頼することも必要になると考えている。
- この 3 つの部会については、これまで協議会で検討されてきたコンセプトと整備の考え方を踏まえ、現在の協議会の事務局メンバーが中心になって運営ができると考えている。各部会での議論が進むにつれ、形を変えていくことも考えられるが、当初はこの 3 つの部会と幹事会の構成で行うことが妥当であると考えている。

(座長)

- この協議会自体はコンセプトを考えるということが一番の大きなミッションであるが、ただコンセ



プトを考えて終了ではなく、そのコンセプトを基に実際にこの道の駅を作り、更にそれを運営していくという形の方向性の所まではこの協議会で議論して、次の方に引き継ぎたいと思っている。その関係で運営に向けた検討方法について、提言書に盛り込みたいと思っているので、これに関して是非皆さまのご意見ご質問等を受けたいと思う。

- スケジュールに関しては、平成 30 年度末オープンということで、これをエクステードとすると、それから考えるともう今年度中には、年明け位にはこういう次の組織を考え、立ち上げて、具体的に議論を進めていく必要があるように思っている。

(意見交換)

- スケジュールの、H28 というのは終わりは 3 月ですね。ということは実施設計を来年の 3 月までに終わらせたい。そうすると実施設計には何ヶ月かかるか。
 - (事務局) 発注を 5 月以降で年度内の工期を予定しているため、10 ヶ月か 11 ヶ月位の期間を考えている。
- 29 年の 3 月までに設計を終わらすために、28 年の何月位までに決めて設計に渡す必要があるのか。
 - (事務局) あくまでも想定だが、9 月から 10 月位までにはある程度の形で決める必要があると思う。
- 「考える会」の構成メンバーについて、一般の町民の方や女性の方が入っていないが、ワークショップなどでも町民の方がやっているという事実を知らないということがある。動いている中で、入って頂く必要があると感じている。町内の子供子育て支援会議(私立の幼稚園の校長先生達の話し合い)で非常に関心を持って頂いて、子供達の遊び場が足りないという議論から、道の駅でどうだろうかという話がある。そこに女性の方も構成メンバーに入っている中で、ワークショップをやっていることが知られていないという状況なので、是非町民の方を巻き込んで頂きたいと思っている。また、子供達の観点から安全面などについても議論して頂きながら作って頂きたい
- 部会では実務でやっていくことが必要で、もう 1 回多くの人を集めて話しても話しだけになってしまうのでは。部会の中の参考意見として入れておくという話なのではないか。
 - (座長) 基本的にはオープンにするべきだと思う。その部会の中にやはり是非女性の意見を入れて頂きたいのと、やっぱりこういう形が知られていないというのは良くないため、町民により知らせるためにも、オープンになっているっていうことは是非明示して頂きたい。
- 過去の例から言うと飲食店組合を入れると自分達の組合の意見のみになる。トータルでうまくいくということではなくて、組合としてこれをやらしてもらわないと困るとか、これも売ってもらったら困る、というようになると成功しないと思う。意見を組み入れるので組合としてやってくれるというなら良いかもしれない。
 - (座長) 多分これからは広く意見を言うて頂くというよりも、収斂させていくためにうまく町民と団体等のカウンターバランスが取れる様に、部会構成を考える必要がある。
- 考えられる関係者ということでは、ドライバーや一緒に乗って来る人達が主役だと認識している。当然スキー場のロッジと併設するのでスキーヤーが主役になるのであろうし、そういう方も参加して頂いて、生の声があればと思う。特に長距離のトラックのドライバー、休息仮眠する方の要望もあるかもしれない。それらの方々を入れるということも検討すると良いと思う。
 - (座長) 確かにユーザーが入ってない。皆さんもユーザーの内的一方なんですけど、確かにそういう意味だと、ユーザーが明示的な関係者として入っておらず、設計するなどの時の本当



の関係者しか入っていないように見える。その辺りも少し考えて道路ユーザー、更にはスキー場のユーザーについても検討して頂きたい。

- (座長) 幹事会と3つの部会(体験部会、産業・食部会、情報発信部会)という形で「考える会」を進めて行きたい。私もオブザーバーとして可能な限り参加し、今後共関係していきたいと思う。
- 幹事会の人選は誰がやるのか。
 - (座長) 本当は是非皆さんから“私がやる”と後で一言頂きたい。ただし、このメンバーだけではないので、事務局として案を考えて頂いて、その中で今回参加して頂いた皆さんがコアメンバーになってくることがかなり考えられる。皆さんとご相談しながらという形になる。
 - (事務局) お話しもらいましたように、そういった部分がある程度提示させてもらいながら進めさせて頂きたいと思っている。

(座長)

- 宜しいでしょうか。今回はこのメンバーでこの提言書の所までは皆さん合意頂いたという事で宜しいですか。

(委員)

- はい。

(座長)

- もう一言ずつ是非頂きたい。この協議会はある意味組織を代表しているわけでは無いが、組織を横目で見ながら皆さん個人的なご意見を今まで色々頂いた。しかし、これから始まる「考える会」の方はかなり組織として動かなければいけない部分もあると思っている。
- 今回はこの会での発言であり、自分が所属している組織としてどういうことが考えられるかで結構で、こんなことをやるという宣言は一切必要ないので、前向きなご意見を最後に頂きたい。

(委員)

- 遠軽青年会議所は、遠軽町にある町づくり団体という事で、道内に48あるひとつの団体の中でこの地域で今後若い世代がどう生き活きと育つかという事を考えながら念頭に事業を行ってきた。全道のネットワーク、全国の仲間のネットワークを使って、良いアイデア、どう遠軽町を発信していくかという事で、団体としてはお付き合いしていけるのかと思う。また我々青年経済人の団体でもあるため、今のメンバーは23名いるが、それぞれの思いで各部会に所属するというのはある。専門的な人間もいるため、是非我々の世代が新しい経済を起こすわけではないが、そういった気概を持って活動も個人個人が取り組んで行ければと思っている。
- 過去の協議会でも話した通り、スキー、冬に関してはイベントで連携をしたい。夏に関しても色々なイベントや行事で、リフトがあるのでこれを利用しない手はないと思う。夏にもリフトを利用することで集客するという事で道の駅と連携をしていきたいという考えは持っている。
- えんがる商工会の中にもこの道の駅に対して考える会みたいなものを作って考えて話ししていかないといけないと思っている。その辺を会長と考えていきたいと思っている。
- 物産協会内は若いメンバーが増え、是非とも参加させてもらいたいというメンバーが増えてきている。何回も話したが、まだ道の駅に関してどの位、商品的には色々な物を考えようという話しや発想も持っている。こうやって商工会議所、観光協会、会社経営みたいになるかもしれないが、是非



とも私共も新しい物を作って、協力して行きたいと思っている。

- 白滝の道の駅もやって、商工会、観光協会、全部関係ある。遠軽で道の駅をやるからには絶対失敗できない。会長で1回も出て来ない人もいる。結局、ここにきちんと責任持って、きちんと発言できて、やれる人間を選んでほしい。そうでないと絶対にうまく行かない。代理で来てきちんと発言できる様な立場を作って出てもらえるのが一番である。道の駅をやっていて一番迷惑なのは吹雪いたらすぐ通行止めにするので、その時にはお客さんは全然誰も来ない。でも指定者管理を受けている以上開いていないとならないとか色々なことがある。色々な問題が出てくると思うのできちんと話し合わないとならない。
- 実は道の駅構想ができた時から、生田原地域で自分達でできることを考えている。道の駅で売る物を想定し、生田原地域はヤマメの里と言われているので、その物だけではないが他の物も含めて試作している。実は明日、ヤマメのマリネだとか、有機マスなど生田原で取れている美味しい魚を使った物産を関係者が集まって試食することになっている。30年のオープンまでにはメジャーな形にして、販売できるようにと考えており、関連した部会に所属してやらせて頂ければと思う。
- 絶対に失敗は許されない事が前提となる。言いたい放題に言うっていうのは一番簡単である。代理で来られてる方、1回も来られない方に関しても、後で“俺達は出てないから聞いてないよ”って事ことには絶対ならない。今後、意見の場から帰って代表者に伝えるということが大事だと思う。観光と食は絶対切り離せない。この道の駅も食については、ナンバーワンに考えるべきものだろうと思う。今の生田原さんが言った様な事は凄いことであり、これをもっともっとやらなくてはならないと思っている。私は観光協会という立場で、オホーツクの入口ということで、この遠紋地区だけではなくオール網走の中であそこに行けば全部情報がわかる、ということをやらなくてはならないだろうと考えている。
- 商工会議所という立場で話しをさせて頂くが、会議所はスタッフという意味での機能は充実していると自負している。道の駅については、会議所のスタッフの中では真剣にやろうという話しになっている。道路は繋げないとならないから、丸瀬布遠軽道路と北見遠軽道路とジャンクション機能を将来は兼ねることになるということでもいいのか。
 - (網走開発建設部)本線をどっちに持っていかによって。ロックバレースキー場の位置からは遠軽寄りの方という形になると思われ、ジャンクション機能と一緒にできるとは言えないのかなという気がする。
 - 一番答えづらいことを聞いてしまい申し訳ない。会議所は、前段申しましたようにスタッフ機能が揃っており、真剣に取り組んでいきたいと思う。

(座長)

- 皆様から本当に覚悟があるっていうその話しを頂いただけで私は本当に安心して検討協議会を終了する事ができますが、本当に絶対失敗は許されないっていうその覚悟の基に今後進めていって頂ければと思う。
- 時と場所と人というのが物事が成功する、新しい物が生まれるそれぞれ要素だと思う。こういう IC が遠軽町に出来るという時と、その遠軽にできる IC がスキー場、更にはこういうロケーションにあるという場所と、最後やっぱり先程から出ている、ではこれを新しく作る人達というのをどうやって選ぶのか、が最後のポイントだと思う。当然若い人も入る事になると思うし、女性も入るし、更



にはその発言をきっちり言えるような、ちゃんと物事を覚悟を持って考えられている様な人達を選ぶ。この3つが、時と人と場所がきっちり合えば多分失敗する事は無いのではと思う。

- この駅に良い名前を付けてもらいたい。鉄道ができて 100 年の遠軽は色々な意味でその鉄道の分岐点で、分かれていき、更にはここに集まってくる。そこに集まるということはそこに情報も集まるということだと思う。こう考えると、この IC、道の駅も含めて、JR の駅ではないが、やはりこれからの将来に向けての分岐点であり、集積する駅となるということを考えると、歴史も含めた、更にはそういう機能も含めた形の何か良い名前が必要だと思う。最近、簡単な適当な名前を付けてしまう所がよくあるが、やはり良い名前を付けるということが、この道の駅の本質を皆さんにわかって頂く、更には皆がわかる、ということだと思う。今良いアイデアありませんかって言っても私は無いが、これからも考えていきたいと思う。是非良い名前の道の駅をつけてほしい。遠軽道の駅じゃない、オホーツクの玄関口なのか、更にはこれから分かれていくそういう形の分岐点的なものなのか考えていきたいと思う。
- 今回コンセプトを作るという事がメインだったが、これからは是非運用も含めて設計運用も含めてこれからずっと継続的に続けていけるような道の駅を作る「考える会」にも橋渡しが出来たと思うので、皆さんのご協力頂いて、こういう提言書をまとめることができ本当にお礼を申し上げる。

3 町長挨拶

- 道路が 30 年近くかかって、本当に長い時間がかかってようやく近くまで来た。スキー場のロッジをその時まで何とか持たせて、来たら新しくしようという考えがずっと我々の先輩の時代からあった。これが今ようやく実現しようとしている。そこに、道の駅を拠点として、北海道で初めてのロッジと道の駅を一緒にしたものを作って行くのだということ、実はもう 4 年位なるでしょうか、我々も内々にもう色々職員が見に行ったりしていた。
- この道の駅を今まさしくオホーツクの玄関口として我々はこの道路を皆がやって良かったなあとと思うようにしたい。先ほどから失敗はできないという話があったが、本当にこの地域の発信をするんだ、このオホーツク遠軽、この地域を変えていくんだ、というひとつの起爆剤になっていくだろうと思っているし、そうしないといけない。
- この施設を作るということは、ただの物流だとか遠軽の物を売るとかだとかいうことではない。観光だけのことでもなく、スキーだけのことでもない。そしてこれからはやはり問題だと思う。どういったものを売って、どういったものを食べて、どういったことをするんだということ、やっぱり今度考えていかななくてはならないと思う。
- ハコは皆さん方が考えてくれたコンセプトがあります。これから何をやっていくんだということが非常に重要であり、ここの所が遠軽町には今までに足りなかったのではないかと思います。
- 先日福岡に行って、明太子屋さんですけど煎餅がホタテの味の煎餅。これは北海道の土産物のベスト 3 に入っておりますが、そこの社長の所行ってですね、市町村長で売り込みです。プレゼンを我々自らやって来た。その時にも他の町に比べて少なかった。そういった事は私も町長になってからずっと感じている事で、とにかく、食べ物でも何でも何か作ってこようよと色々やっていた。しかし、まだまだ足りず、我々が道庁に言われる。何だかんだ言って遠軽、特にこのオホーツク管内っていうのは、14 振興局ある中で自治体も裕福だし良いよね、と言われる。住んでいる我々にはわからないかもしれない。だけど全道を見ている人たちからするとそういうことである。それが逆に現状に



甘んじて来ていたのではないのかと。よって、道の駅をやることにより、これから更に色々なことを考えていかななくてはならない。そのために町としても今制度を作っており、色々なものを研究していくことに町もどんどん支援していきたいと思う。

- 今まで非常に財政の苦しい中で我々は合併をしてきた。私も財政担当をずっとやってきてあと3年持つかというような状況で毎年予算を組みながらやってきた。残念ながら我々はそういう時代でしたので、発想力がもう何か無くなっているのではないかと。この道の駅を起爆剤にして、思い切ってやっていきたい。
- 昔は、遠軽の国鉄駅を中心に名寄まで、そしてサロマ湖を通過して網走まで行った湧網線、今もある石北線があった。この道の駅は、まさしく駅で、要衝、オホーツクの玄関口である。そこをしっかりと踏まえて、我々が力を合わせてどんどん色々なものを発信し、そして今までの我々のできなかったこと、ダメだったことを打破して新しい遠軽町を作っていくために、皆さんにご協力をお願いしたい。

(座長)

- ありがとうございます。最後に一言だけ。今回事務局サイドにいらっしゃる行政の方も今の町長の熱意を実現するために一丸となって頂きたい。熱意だけじゃ中々物事は進まないの、やはりそれを具体的にするためには、役所の方の一丸が今回成功するかどうかというところの大きな鍵を握っているのではないかと思うので、是非宜しくお願い致します。

4 閉会

(事務局)

- 本日は提言書の中身で若干ご意見を頂いた点については事務局と高橋先生の方でまとめて、皆様方にご報告をさせて頂きたい。
- 今まで協議会と同様に、本日の会議の内容もホームページ上で公表して、町民の皆様方に公表し更に色々なご意見を頂きたいと思っている。
- 先程あったように今後「考える会」で詳細を検討するが、引き続き皆様のご協力を頂きたいと思っている。

以上